

# 除夜の鐘恒例行事と元朝お護摩申込ののご案内

謹啓 立冬の候と相成り皆様には益々御健勝の御事と大慶に存じ上げます。

この度の東日本大震災により被災されました皆様に衷心よりお見舞い申し上げます。さて、皆様すでに御案内の通りとは存じますが、当山は真言宗智山派・湯之嶽観音別当・三箱山法海寺（三箱霊園）と号し今より凡そ、巻千二百年の昔（大同二年）奈良の高僧徳一大師が当地方を訪れ湯之嶽の山頂に登り山を開く修行を済ませお堂を建立し本尊十一面観世音の尊像を安置し地方の霊山と名を打ち国家安泰、地方の安全を祈願し続けおりに、時慶安元年（一六四八年）徳川三代將軍家光公より代々將軍の祈願所として御朱印を賜わり、しかも法海寺はその別当寺として当時は湯之嶽山頂に（約七合目）観音堂と共に七堂伽藍を備えしが再度の山火事により焼失、今より凡そ八百年前現在の地の田場坂に移り湯之嶽に安置された尊像は幸いにして焼失を免れ今の本堂内正面宮殿にまつり込まれて居ります。

明治の時代に至り廃藩置県の令が発せられると同時に御朱印も廃されたが、信仰者各位の御守護により実に巻千七百有余年の間、霊峰湯之嶽十一面観世音尊と法海寺の法灯を現世に護持し、磐城三十三観音霊場第五番札所として参詣者が常時たゆむ事なく霊験、事の外あらたかなり。

以上にして檀信徒の皆様は誇りをもち、私達は朝な夕なに御先祖様の冥福を念じ、御家族皆様方の御安泰を望み観音御本尊様に祈願し続けて居ります。

抑、湯之嶽十一面観世音尊と申すは、十一面観自在菩薩様ともいえり、お顔が十一面に成っており、願い事を広い範囲からそして慈悲（思いやり）深く優しさをもってお救いくださる御利益の深い観音様なのです。

そこでのいよいよ本年も早残り少なくな成って参りました。この時に当たり来年こそは良き年であります様にと切なる願いはどなたも同じだと思います。

つきましては、当山に於いて元朝大護摩修法を厳修致しますので、新年度の願望と大震災からの物心両面の早期復興を皆様と共に御祈願申し上げ、現世の心の寄りどころとして戴ければ幸甚に存じます。

御信心の皆様は是非とも、左記申込用紙に記載され期日迄にご返信下さいますようお願い申し上げます。 合掌

## 《行事のご案内》

- 一、十二月三十一日 午後十時より お火焚（おひたき）祈願  
神棚・御仏壇の古いお札等粗末にならないよう御持参下さい。
- 一、十二月三十一日 午後十一時より 除夜の鐘  
順番にどなたでもつけます。
- 一、一月一日【元旦】 午前〇時を期して 元朝一番大護摩供厳修（本堂）

※ お護摩申込期日は十二月十五日までに準備の都合上必ず。御祈禱料は前金かお札と引き換えですので、大変でも取りに来て下さい。都合にて元朝おいでになれない方は代理人でも結構です。尚、県外の方は発送も承ります。

※ お願い 近所・知人・友人・ご親戚等にもおすすすめいただき大変でもご記入もお願い致します。

※ ご来山の方にはお守り・甘酒・年越しそばの接待もごさいます、お気軽にお出かけ下さい。

平成二十三年十一月吉日

湯之嶽観音別当（三箱霊園）

三箱山 法海寺 住職 楠 淳雄



檀信徒 各位

きりとり線

## 平成二十四年度 元朝お護摩申込書

申込代表者 氏名

祈禱料 二千元・三千元・五千元・一万円・一万円以上

家内安全・身体健全・交通安全・厄災消除（年齢）・安産成就（年齢）・商売繁盛・事業繁栄・当病平癒・心願成就・入試合格・除災招福・大漁満足・海上安全・祈願還暦・延命長寿・旅行安全・航空安全・その他

祈禱料	お願いごと	年齢	氏名	ふりがな	住	所
金 円也						
金 円也						
金 円也						
金 円也						
金 円也						